第 11 回 葛飾区基本構想・基本計画策定委員会【第２分科会】会議録

○場　所　：葛飾区男女平等推進センター　多目的ホール
○日　時　：令和３年１月 22 日(水)　午前 10 時～12 時 10 分
○出席者　：中林分科会長、谷川副分科会長、大山委員、中村委員、谷茂岡委員、藤井委員、沢崎委員、武者委員、市原委員、染谷委員、吉田委員、松村委員、菊入委員、川名委員、長委員、田口委員

（発言者の敬称略）

１　開会

２　議事

基本計画（素案（案））について

○資料１　葛飾区基本計画（素案（案））

○資料２　葛飾区基本計画（中間のまとめ）からの主な変更点

分科会長　本日は、第２部「基本方針・葛飾・夢と誇りのプロジェクト」、第３部「政策別計画」について、まちづくり関係、環境関係、産業関係の３分野にまとめて、それぞれ検討を行う。

62・63 ページの各プロジェクトと関連する政策・計画事業一覧に、「健康長寿のまち、葛飾」推進プロジェクトに計画事業「障害者スポーツの推進」がある。障害者の方もなるべく体を動かそうという視点もあるのであれば、「障害者支援」という政策を入れておいた方が良い。

事務局　他の分科会でも狭く捉えずに、関連するものについては広く取って関連する政策を書いてほしいというご意見もあるので、改めて見直していく。

分科会長　プロジェクトを推進していく上で、関連するものは全て重複しても追加しておいた方が良い。「評価指標と目標値」が全部の施策に追加されているが、ご意見をお願いしたい。

委員　施策「駅周辺拠点の形成」の中の金町駅周辺の再開発について、昔、金町地区センターを移転する際に、将来的には駅をイトーヨーカドーの後ろに移動し、地区センターと合わせるという話があったが、ＪＲとは協議しているのか。また、駅前の公団住宅について、当時は建替の議論もあったが、その後はどうなっているのか。

分科会長　168 ページの２つ目の項目に「ＪＲ金町駅の駅舎改良」の記載があり、北と南の自由通路も含めて検討されていると思う。

事務局　金町駅周辺、特に北口は駅前広場が狭くバスが通る道路でもあるため歩行者が安心して通行できないという話をいただいている。そのため、170 ページの「金町周辺のまちづくり」には、駅前広場や生活道路の拡幅整備、沿道における街づくりの推進を位置付けており、駅舎の話も含めてＪＲと改良の協議を進めていきたいと考えている。公団住宅についてはＵＲと話を進めており、今後、金町駅の北口のエリアは、大きく変わってくる

と思う。

分科会長　高齢化が進むと、駅改札を出てすぐタクシーに乗りたいという声もあるかと思う。拠点化していく駅周辺を使いやすいものにしていくためにバリアフリー、ユニバーサルデザインが必要である。

委　　員　施策「道路交通網の充実」の評価指標「区内の交通の便が良いと思う区民の割合」について、交通の便は道路だけではなく、鉄道の立体化や無電柱化も指標にした方が良い。また、195 ページの評価指標は区内の交通に限定した方が良い。バリアフリーや公共交通の充実には、脱炭素と関連した指標を置くべき。具体的な指標があると良い。

委　　員　施策「駅周辺拠点の形成」の評価指標について、もっと指標があっても良い。ここだけが一つの指標に盛り込み過ぎている。また、過去から現在までの現状値と目標値を比較できるようにして、これまでどのように指標が推移しているのか分かるようにした方が良いと思った。

分科会長　過去から現在の現状値の推移について、毎年取れるデータもあれば、単発で取るデータもあるので、検討してほしい。

事務局　過去から現在までの推移について、例えば 168 ページ「区内の駅周辺がにぎわいのある地域になっていると思う区民の割合」のグラフにより過去の指標の推移を示している。過去の経緯を踏まえつつ、より正確に施策を評価するに当たってはどのような指標が良いのか、検討していく。

分科会長　マーケティング調査は絶対に誤差が出るので、客観的な指標と区民アンケートに基づく指標をペアで使う方が良い。施策を工夫していく上で使いやすい評価指標になると思う。

委　　員　葛飾区は緑が多いように思われているが、農地や公共の樹木は減っている。このような状況下で、森永乳業の跡地にマンションが建設されたら、ますます緑地が減ってしまうという危機感がある。区が土地を購入して公園にする、緑化に役立てるということを計画に入れると良いと思う。

事務局　森永乳業について、今後、土地を売却するのか、グループ企業で使用するのか、森永乳業が直接開発するのか未定であり、区としても未定の土地を対象に計画を立てることは困難である。今後、森永乳業と協議し、計画を立てられるようであれば検討したい。

分科会長　区と企業が連携して、より良い地域づくりにつなげていけると良いと思う。森永乳業から川を挟んだ反対側には東立石緑地公園があるが、奥戸の南側の辺りは浸水ハザードマップでは浸水区域となっている。堤防と同じ高さまで盛土をして公園を作るなど、マンション等が建設されても、地域の防災拠点となるような地域貢献をしてもらえるよう、連携すると良い。

委　　員　施策「防災まちづくり」の２つ目の項目に「耐震化率を 95%にする」とあるが、耐震化率に注釈を入れてほしい。ここでいう耐震化率は、新耐震基準を満たした建物と認識しているが、95%近くの建物が新耐震基準を満たしているのは本当なのか。どのような

データを基に算出しているのか。

施策４「良好な住環境づくり」に、「区内には 2,451 棟の空家等があり」と記載があるが、ここでも空家の定義について注釈がある方が良いと思う。また、空家に関する評価指標の要否をお聞きしたい。

事　務　局　耐震化率は、全ての建物に対する耐震化された建物の割合と認識しており、注釈も必要に応じて入れていきたい。また、95%という数値は目標値である。

空家の定義は、空家対策特別措置法の定義と同じであり、建築基準法の建物で利用されていないものである。この定義も必要に応じて注釈を入れていきたい。また、評価指標については、「住環境が良好だと思う区民の割合」で測れると考えている。

分科会長　耐震化率について、令和３年度からの計画であるため記載を整理し、令和２年度は何%なのかという現状値を入れてほしい。また、評価指標「耐震化支援事業の耐震化率」について、昭和 56 年以降の建物は耐震性があり、それ以前の建物は改修して耐震性能を補強している。耐震化率の分子に、昭和 56 年以前の建物を耐震補強した数を含むのか検討すると良い。433 棟ある「早急に対応すべき空家」についても説明した方が良いと思う。

委　　員　「ゼロエミッションかつしか」実現プロジェクトについて、包括協定都市を記載したことは高く評価する。国では、第５次環境基本計画で地域循環共生圏という考え方を打ち出しており、令和２年環境白書でも大きく取り上げられている。ここで構想されているのは、都市部と農村、漁村地域との連携によって社会と経済、環境の成果を追求していくこと。大きい課題はCO_2の削減だが、国で掲げている構想のことが基本構想や基本計画には全く書かれていない。本来、このようなことはコンサルタントが提案し、行政で検討していくべき。今回のコンサル会社は、ＩＣＴに強いと言われているが、得意分野から離れた分野には向いていない。

施策１「地球温暖化対策」の評価指標に「省エネを心がけている区民の割合」とあり、施策の方向性には「区民や事業者」と書かれている。「省エネ」で括ってよいのか、区民・事業者で分けた方がよいのか、検討の余地がある。環境マネジメントシステムの対応件数は客観的な数字であり、産業政策とも関わってくるので、指標として検討してほしい。

施策５「資源循環の促進」の評価指標「事業系ごみ年間総排出量」について、事業系ごみを減らしたいのであれば、事業そのものを止めてしまうという手もある。事業系ごみ年間排出量は、有料ごみ処理券の売られた件数で産業別に把握しているのか。把握していれば、施策の具体化の検討もできる。地域の産業振興という観点からも使える施策と思っている。

事　務　局　地域循環共生圏は、地域と都市で自立・分散型の社会を構築していくという考え方と認識している。「ゼロエミッションかつしか」実現プロジェクトの「地方の森林保全などに取り組む」については、いわゆる森林環境税を使って、本区と包括協定都市などが地

方の森林保全を図りながら、CO_2を吸収するという考え方を記載した。地域循環共生圏についてのご意見を踏まえて、事務局と検討する。

施策１「地球温暖化対策」の評価指標、環境マネジメントシステムの対応件数については、産業観光部とも調整をして検討する。

事　務　局　施策５「資源循環の促進」の評価指標「事業系ごみ年間排出量」については、有料ごみ処理券の販売数ではなく、許可業者が収集して清掃工場に持ち込んだ量を捉えている。なお、業種別のデータについては、今は把握していない状況である。

事　務　局　コンサルタント会社の富士通総研には、庁内調査資料の集約やとりまとめ、データ・資料の提供、他団体の施策の情報提供などの策定支援を依頼しているが、文言については、全て庁内で検討して作成している。ＩＣＴに強いといった視点で選んだ訳ではない。

委　　員　186 ページの施策５「消費生活」について、新型コロナウイルス感染症が流行する中、被害が多くなっている。被害防止に向けた事業について、計画の中でできるものを一つでも早くに実行してほしいと思う。また、消費者教育の推進を図ると成果が出ると思う。

事　務　局　消費者教育という面で一つ一つ積み上げて実施していきたいと考えている。

分科会長　212 ページの「３Ｒ」について、注釈を欄外に付けておくと良い。また、48 ページには「ＺＥＶ」にアスタリスクを付けて文章の下に説明が入っているが、最終的には、全体を通じて欄外に番号を入れる形式に統一した方が良いと思う。

委　　員　201 ページ「水辺の積極的な活用」について、水害の危険が高まっている中、防災について一言入れてほしい。「水元さくら堤の改修」について、水元さくら堤には絶滅危惧種と希少種が多いので十分に配慮し、その周知方法を検討してほしい。「水元小合溜の保全」について、「特定外来生物等の防除」とあるが、東京都と共に対応してほしい。

213 ページ「プラスチックの３Ｒ・適正処理の推進」について、最近、資源ごみの抜き取りがすごく多い。区としてどのような対策を行うのかが反映されていない。

事　務　局　水害対策は、政策 14「防災・生活安全」の施策２「災害対策」に記載している。具体的には、水害対策を強化するため、江東５区大規模水害対策等に取り組んでいる。昨年度、ハザードマップを作成し、説明会を開催したが、今年もコロナ禍で最大限の対策を行い、台風が来る出水期の前に区民の方にハード・ソフト両面で説明をしていきたい。

事　務　局　さくら堤の改修工事については、自然や生物に配慮しながら実施している。また、自然環境を周知するような取組も検討したいと考えている。水元小合溜に関しては、「河川環境改善計画」に基づき、良好な水環境を保全していきたい。

分科会長　199 ページの「公園の整備」に「地域の防災活動拠点となる公園の整備」について、今までは地震時の活動拠点というイメージが強かったと思うが、これからは地震時にも水害時にも地域の防災拠点となる公園整備を進めてほしい。また、川に親しみを持つことが、正しく恐れることにつながる。川と日常的に共生する、共に生きる空間として活用していくような公園整備、まちづくりを展開することを検討してほしい。

事　務　局　資源ごみの持ち去りについて、８時までに回収をしたり、職員がパトロールをしたりといった対策に取り組んでいる。今後も対策を進めていくほか、集団回収等が対策につながることから、区民の協力を得ながら今後も進めていきたいと考えている。

委　　員　施策６「まちの美化推進」について、ＪＲ３駅のポイ捨ての実態調査の仕組みがよく分からない。私の団体では金町駅前の清掃を毎月１回行っている。たばこのポイ捨ては減ったが、缶や瓶はまだ多い状況である。道路の清掃は危険なので、清掃に取り組んでいる団体や子ども会、町会に、区が保険をかけるといった制度を作ってほしい。

事　務　局　ＪＲ３駅のポイ捨てについては、条例制定前から調査をしている。数字が段々下がってきており、一定の効果はあると考えている。また、区民の方の取組については、ボランティア保険のように区が手当できる保険もあるので、活用しながら進めていきたい。

副分科会長　219 ページの評価指標「創業塾受講者のうち、実際に創業した件数」、221 ページの評価指標「倒産件数」について、２つ提案がある。統計的な区の開業者数を出し、開廃業率が分かるようにした方が、葛飾の開廃業の動態が分かると思う。

また、倒産件数については、例えば疲れたから閉店するというのは廃業になるので、倒産にはならない。廃業数、開廃業率も押さえて、区の支援件数を追ってほしい。統計的に葛飾がどう動いているかが分かる数字がほしいと思った。

事　務　局　廃業した事業者数を捉えるのは現状、非常に困難な状況であるため、今はこのような指標にしている。指標については、今後また検討したいと考えている。

委　　員　葛飾区は現在、ほとんど中小企業ばかり。昔、区には大きな工場がたくさんあったが、今はほとんど撤退してしまった。都心にある大手企業を誘致する運動や活動を区がするべき。小さな企業を創業するという人を育成するだけではなく、ＩＴ企業に都心から葛飾区に移転してもらうような政策をしてはどうか。

事　務　局　本区に大企業が来ることは、区内産業の活発化にもつながると思う。今のご意見も含め今後検討していきたい。

委　　員　東四つ木にある工場アパートに、親の代に始めた事業を息子たちが引き継いでやっているが借地借家契約の関係で退去を求められている事業者から申込みがあった。しかし、入居できず、葛飾区内ではもう手頃な物件がないので、三郷か八潮に行くという話を聞いた。近年、工場や店舗が続々空いてしまい、空きっぱなしのところも結構見ている。そういう情報を上手く捉えてマッチングさせていく仕組みが防災にもつながると思う。

また、これから温暖化対策のためにエネルギーの地産地消が強く求められてくる。太陽光発電等のメンテナンス事業者向けに空き施設や空き地を情報提供するのも一つの手だと思う。

事　務　局　空家・空店舗も区内に多く見られるようになってきている。今後、創業者と商店街のマッチングを進めていく中で、空き店舗の活用を促進するといった取組も展開していきたいと考えている。

事　務　局　店舗活用について、商店街には東京都の補助制度があるので、商店街の会長とも協議しながら店舗活用を進めているところである。

委　　員　文化・芸術センターをつくることを要望する。防災設備、音楽センター、美術館といった複数体制のセンターをこの 10 年間の中で計画を立ててほしい。現在、吹奏楽団・オーケストラは、シンフォニーヒルズの練習室で練習をしているが、　非常に狭く、毎回は使えないので、練習できる環境を作ってほしい。あわせて、美術館を入れると写真展もできるし、書道展もできる。そうすることで、若いアーティストや子どもたちの育成にもつながる。堀切、四つ木辺りの防災上危ない地域に、防災設備を兼ねた文化・芸術センターがあると良い。

事　務　局　現在、文化・芸術活動は「シンフォニーヒルズ」、「リリオホール」、「地区センター」等で行って頂いている。また、音楽に限らず書道、美術等もこちらで活動している。ご意見を踏まえ、今後どのような形で文化・芸術を推進していけるのか研究したい。

委　　員　228 ページ施策１「観光まちづくり」について、観光情報の発信が知名度の向上と観光誘客につながっていることを示す根拠となるデータがあるのであれば、評価指標に入れるべきと考える。

また、葛飾区内の観光についての認知度を入れてもよいと思う。例えば、小中学生の授業の一環としてアンケートを実施したり、観光客の満足度調査を行い、評価指標に入れるべきと考える。

「観光・文化のまち葛飾」推進プロジェクトについて、63 ページの産業振興プロジェクトの「葛飾ブランド創出支援事業」と「伝統産業販路拡大支援事業」は、観光にもつながるため、「観光・文化のまち葛飾」推進プロジェクトにも入るように見えると良いと思う。

事　務　局　観光課では数年に１回、観光経済調査を実施しており、そこで効果測定をしている。この調査は、３年に１度実施していく計画だが、コロナ禍によって実施が停止している状況である。また、観光経済調査では認知度や満足度といった明確な聞き方はしていないが、そのようなことを引き出すような質問をしている。基本計画の中でも分かりやすく表現し、指標化できないか再度検討する。

事　務　局　「伝統産業販路拡大支援事業」は 219 ページにも「観光施策とも連携しながら」と記載しており、観光施策にも関連していると考えている。また、「葛飾ブランド創出支援事業」については、工場製品のため、協議していきたい。

分科会長　文化・芸術イベントは、新しい葛飾の観光資源となり得るものである。今後、文化・芸術イベントを核にして新しい観光を発信していく、盛り上げていくことも考えられる。ポストコロナを踏まえ、新しい観光として文化・芸術イベントができるのではないか。

“おうち”時間が増えると、通勤時間が生活時間に変わる。その時間を地域のにぎわいに活用してもらえれば、今までと違うにぎわいが生まれる可能性もある。ポストコロナ

の観光は、時間の使い方を含め変わってくる。その点も検討するとよい。

委　　員　政策 19「観光・文化」の施策１「観光まちづくり」に対応するＳＤＧｓ17 の目標に教育を入れてほしい。歴史・文化も含めて観光のコンテンツになる。ここには教育と表現しないとしても、何か目標やゴールがあれば教えて頂きたい。

事　務　局　ＳＤＧｓの 169 のターゲットに直接貢献できるものを原則として挙げている。ただし、観光・文化について、教育の視点が必要であるし、決して枠を超えたものはやらないという趣旨ではない。

委　　員　62 ページに協働推進プロジェクトは、全ての政策・施策に関連するとある。また、第４部に関連するプロジェクトの 12、13、14 には指標がない。例えば、実際に葛飾区の協働化率が何％なのか、第４部に評価指標が３つあると良い基本計画になると思う。

事　務　局　協働化率として出すのは難しいかもしれないが、葛飾区と色々な団体や個人との協働、団体同士や個人同士の協働を把握し、客観的に数値化、指標化できるか改めて検討したいと思う。

分科会長　現在、コロナ禍にあって密集、密閉、密接を回避するため、人がばらばらになるような生活様式になっている。コロナ禍で分断・孤立した社会になってしまい、協働に取り組むこと自体が非常に難しくなっている。

私は、親密、緊密、濃密をもっと頑張らないとポストコロナの世界が寂しくなると思う。家族や地域でも親密さがあって、仕事場では緊密に連絡を取り合って仕事をする関係。家族はもっと濃密にお互いに支え合う関係。親密、緊密、濃密を拡大することで、協働や持続可能な社会につなげていけると思っている。

26 ページの最後を「区民の協働をさらに推し進めるとともに、地域の人々の心は親密、緊密、濃密の３密ある新しい生活様式を拡大して、発意と活力に満ちた魅力的なまちづくりを進めていく必要があります」として、心の３密拡大を区民にも感じてもらえると良いと思う。

事　務　局　26 ページの記載について、「密から疎へ」と３密を回避しようと世の中が動いている中、その反動が出てきている。また、葛飾区の強みである人情を活かしていくまちづくりが必要と考えている。「心は３密に」という視点も含め、新しい生活様式が入ってきても心のつながりを促進していくという視点を記載し、まとめていきたいと思う。

分科会長　本日の第２分科会についての議事は以上である。

４　閉会

以上